



Reason
ESSENTIALS

インストールマニュアル

propellerhead

日本語マニュアル製作：内藤大輔

本書に記載されている事柄は将来予告なしに変更することがあります。またPropellerhead Software ABは本書に記載されている事柄について約束するものではありません。

このマニュアルで説明されているソフトウェアは、ソフトウェア使用許諾書によって許可されていることを除き、いかなるメディア（記録媒体）にも複製することが禁じられています。

Propellerhead Software ABの事前の書面による許諾なしに、本書の内容の一部またはすべてを、いかなる目的でも複写、複製、転載、送信、記録することは禁じられています。

©2015 Propellerhead Software and its licensors. すべての仕様は予告なく変更することがあります。Reason, Reason EssentialsとRack ExtensionはPropellerhead Softwareの登録商標です。

その他の製品名は、各社の商標および登録商標です。All rights reserved.

目次

イントロダクション 7

ようこそ！ 8

Reason Essentials のドキュメントについて 8

必要となるシステム 8

Reason Essentials パッケージ版に含まれるもの 9

Reason Essentials インストール DVD 9

製品のオーソライズ 9

Reason Essentials ダウンロード版 9

パッケージ版が届くまでの Reason Essentials ダウンロード版の使用 9

インストール 11

必要条件 12

Mac OS X 12

Windows 12

オーディオハードウェアについて 12

Mac OS X とオーディオハードウェア 12

Propellerhead Balance オーディオインターフェースを使用する場合 12

Macintosh 内蔵オーディオハードウェアを使用する場合 13

Macintosh で他のオーディオハードウェアを使用する場合 13

Windows とオーディオハードウェア 13

Propellerhead Balance オーディオインターフェースを使用する場合 13

Windows PC で他のオーディオハードウェアを使用する場合 13

MIDI インターフェースについて 14

MIDI 接続 14

ソフトウェアのインストール 15

Reason Essentials フルバージョンのインストールを DVD またはダウンロードから実行 15

Mac OS X の Sound Bank について (DVD 版のみ) 15

Reason Essentials バージョン 2.0-8.1 からのアップデート 15

オーソライゼーションシステム 16

Reason Essentials の登録 16

Reason Essentials をインターネット認証で使用する 17
コンピューター /Ignition Key のオーソライズ (オフライン使用のため) 18
コンピューター /Ignition Key のオーソライズ解除 19
Reason Essentials をオーソライズされたコンピューター、または Ignition Key ハードウェアで使用する 19
Reason Essentials をデモモードで使用する 20

セットアップ 21

本章について 22

最初の起動時 -Reason Essentials セットアップウィザード 22

環境設定について 24

オーディオハードウェアのセットアップ 25

Mac OS X 26

Windows 26

レイテンシーとその他オーディオ設定について 26

MIDI のセットアップ 27

コントロールサーフェスの追加 28

お持ちのコントロールサーフェスがメニューにない場合 30

マスターキーボードについて 30

マスターキーボード入力 31

その他の機能 31

デフォルトソングの設定 32

起動時に最後に開いたソングを開く 32

Mac OS X ファンクションキーの再アサイン 33

第 1 章 イントロダクション

ようこそ！

Reason Essentials をお選びいただき、ありがとうございます。

Reason をより簡単にした Reason Essentials には、オーディオ録音と編集、高音質のエフェクトとインストゥルメント・デバイス、そして最高のサウンドを実現するミックスツールが備わっています。

Reason Essentials バージョン 8 では作業をスピードアップするためのワークフローの改善に焦点を当てたことにより、いっそうスピーディーな作業が可能になりました。新しいブラウザは常に開いておくことができるため、ライブラリー、ソング、サウンド、サンプル、そしてインストゥルメントにいつでもアクセスできます。Reason Essentials プログラム内でのドラッグ&ドロップも可能になりました。これによりシンセパッチをシーケンサーにドラッグしてインストゥルメントを作成したり、Redrum チャンネルに直接サンプルを落としたり、エフェクトパッチをラックヘドラッグしてエフェクトを挿入することなどができます。さらに Reason Essentials バージョン 8 には新たに Softube 社のアンプとスピーカーモデルが付属しています。Reason Essentials バージョン 8.1 には新しい "Drop to Propellerhead" 機能が追加されました。これにより、制作した楽曲をご自身の Propellerhead アカウントにアップロードし共有できます。

Reason Essentials バージョン 8.2 では、新たにインターネット経由で自動的にプログラムのアップデートを可能にする自動アップデート機能が追加されました。また視認性を高めるために、より多くの色でトラックとクリップを識別できるようになりました。さらにパッチをブラウズしたあとに、元のパッチに戻せる「戻す」コマンドも備わりました。バージョン 8.3 には、より魅力的なエフェクトを実現するコンボリレーション モードの搭載などでアップデートされた RV7000 Mk II リバープのほか、ワークフローの改善点がいくつも含まれています。

また、Propellerhead ウェブサイト (www.propellerheads.se) にアクセスして、弊社およびサードパーティーのデベロッパーが作った Rack Extension インストゥルメントやエフェクトをラックに追加できることをお忘れなく。

敬具

Propellerhead スタッフ一同

www.propellerheads.se

Reason Essentials のドキュメントについて

本書はインストゥルマニュアルであり、Reason Essentials のインストゥルと基本的な設定手順を解説します。Reason Essentials の機能や操作手順の詳細についてはオペレーションマニュアル PDF ファイル、またはオンラインヘルプをお読みください。オペレーションマニュアルとヘルプでは Reason Essentials のデバイスとコマンドについて詳細に解説しています。

必要となるシステム

Reason Essentials は 64 ビット版の Mac OS X と Windows (詳しくは p. 12 「必要条件」をご参照ください) で使用でき、インストゥル用ディスクも両プラットフォームに対応しています。マニュアル内においても特に指定がない限り、両プラットフォーム共通の内容になります。

Reason Essentials パッケージ版に含まれるもの

パッケージ版 Reason Essentials をご購入いただいた場合、以下のものが含まれています：

Reason Essentials インストール DVD

この DVD には Reason Essentials アプリケーションのインストーラー、サウンドバンク、そして他のコンテンツが含まれます。

製品のオーソライズ

インストールに必要なライセンスナンバーとレジストレーションコードは DVD のスリーブに記載されています。レジストレーションコードは、あなたの Propellerhead ユーザーアカウントに Reason Essentials のライセンスを登録する際に必要となります。アカウントに Reason Essentials を登録した後は必要ありません。

！ 注：Reason Essentials を Propellerhead ウェブショップからご購入いただいた場合は既にアカウントに登録されています。

Reason Essentials ダウンロード版

Reason Essentials のフルダウンロード版には製品コンテンツがすべて含まれています。つまりパッケージ版をご購入いただく必要はありません。プログラムインストーラーをダウンロードしてインストールした後は、製品を登録、オーソライズするだけで使用いただけます。詳しくは p. 16 「Reason Essentials の登録」と p. 17 「Reason Essentials をインターネット認証で使用する」をご参照ください。

パッケージ版が届くまでの Reason Essentials ダウンロード版の使用

パッケージ版の Reason Essentials をご購入後、製品が手元に届くまでの間は、ダウンロード版をフル機能で使用することができます。詳しくは p. 16 「Reason Essentials の登録」と p. 17 「Reason Essentials をインターネット認証で使用する」をご参照ください。

これが初めてのオーディオ録音 / 音楽制作ソフトウェアである場合は、さらに p. 12 「オーディオハードウェアについて」と p. 14 「MIDI インターフェースについて」セクションをお読みになると良いでしょう。

！ Reason Essentials パッケージが届いても、パッケージ内のインストーラーを使わないでください。必要なファイルはすべてダウンロード版によってインストールされています。

第 2 章

インストール

必要条件

Reason Essentials を使用するには最低限で以下のシステムが必要です：

！ これは最低限のシステムですので、ご注意ください。多くの RAM を搭載した高速のコンピューターでは、より多くのデバイスを同時に使用できます。

Mac OS X

- ・ デュアルコア以上の Intel Mac
- ・ 4GB 以上の RAM
- ・ DVD ドライブ
- ・ 3 GB のハードディスク空き領域（最大で 20GB 程度のスワッチディスク領域を使用することがあります）
- ・ Mac OS X 10.7 以上
- ・ 1280x768 ピクセル以上のディスプレイ
- ・ CoreAudio 対応のオーディオインターフェース（Propellerhead Balance など）または内蔵オーディオ機能
- ・ Propellerhead Balance オーディオインターフェースを使用する場合は空き USB2.0 ポート
- ・ インターネット接続（製品登録と Rack Extension のインストールに使用）
- ・ MIDI インターフェースと MIDI キーボード推奨

Windows

- ・ デュアルコア以上の Intel Pentium 4/AMD Opteron
- ・ 4GB 以上の RAM
- ・ DVD ドライブ
- ・ 3 GB のハードディスク空き領域（最大で 20GB 程度のスワッチディスク領域を使用することがあります）
- ・ Windows 7 以上 (64 ビットのバージョンのみ)
- ・ 1280x768 ピクセル以上のディスプレイ
- ・ ASIO ドライバー対応オーディオインターフェース（Propellerhead Balance など）
- ・ Propellerhead Balance オーディオインターフェースを使用する場合は空き USB2.0 ポート
- ・ インターネット接続（製品登録と Rack Extension のインストールに使用）
- ・ MIDI インターフェースと MIDI キーボード推奨

オーディオハードウェアについて

オーディオハードウェアとは、楽器やマイクなどからのアナログ信号を Reason Essentials が使用 / 保存できるデジタル信号に変換し、さらにアナログ信号に再変換（アンプ、ヘッドフォンなどに送信するため）するコンピューター周辺機器のことです。内蔵オーディオカードや 2 チャンネル USB/Firewire オーディオインターフェース（Propellerhead Balance など）から、マルチ入出力やデジタル端子などを装備したオーディオカードまで様々なタイプがあります。どのタイプを使用するにも、ハードウェアとドライバが正しくインストールされている必要があります。

Mac OS X とオーディオハードウェア

Propellerhead Balance オーディオインターフェースを使用する場合

インストール、接続、使用方法など「Propellerhead Balance Operation Manual.pdf」をご参照ください。

！ Balance をインストール / 接続する前に、必ず Propellerhead ウェブサイトで最新の Balance ドライバをご入手ください。

Macintosh 内蔵オーディオハードウェアを使用する場合

すべての Mac 機種には内蔵オーディオインターフェースが備わっており、ステレオ入出力端子（場合によっては内蔵マイクロフォン入力も）が使用できます。Reason Essentials の使用用途によっては内蔵入出力のクオリティーでも十分な場合もあります。

Reason Essentials の環境設定＞オーディオ設定には既にいくつかの入力＋出力の組み合わせが準備されています。

Macintosh で他のオーディオハードウェアを使用する場合

他のオーディオハードウェア（例：マルチ出力、デジタル端子付き等）で Reason Essentials を使用することもできます。このためにはオーディオハードウェアが Mac OS X に対応している必要があります。つまり CoreAudio 用のドライバーのあるハードウェアが必要です。

1. オーディオハードウェアドライバーを、付属するマニュアルの記述に従ってインストールしてください。
一部のオーディオハードウェアは特別なオーディオドライバーを必要としません。詳しくはハードウェアのマニュアルをご参照ください。
2. オーディオハードウェアのステレオ出力を再生機器（スピーカー、ミキサー、ヘッドフォン他）に接続します。
マルチ出力（つまりステレオ以上）の使用方法についてはオペレーションマニュアルをご参照ください。本書では標準のステレオ接続についてのみ解説します。
3. 可能であればオーディオハードウェアで、再生の確認をします。
オーディオハードウェアによっては、このためのテストアプリケーションが付属していることもあります。

Windows とオーディオハードウェア

Propellerhead Balance オーディオインターフェースを使用する場合

インストール、接続、使用方法など「Propellerhead Balance Operation Manual.pdf」をご参照ください。

Windows PC で他のオーディオハードウェアを使用する場合

！ Windows 環境の Reason Essentials でオーディオ入出力をフルに活用するにはオーディオハードウェアの ASIO ドライバーの使用が必須です。

Reason Essentials は Direct X や MME ドライバーでも使用できますが、これらではオーディオ出力のみの対応であるだけでなく、ASIO ドライバーと比較して高いレイテンシーになってしまいます。

1. オーディオハードウェアの最新 ASIO ドライバーを使用していることをご確認ください。
最新バージョンについてはハードウェアメーカーのウェブサイトをご確認ください。
2. オーディオハードウェアドライバーは、付属するマニュアルの記述に従ってインストールしてください。
3. オーディオハードウェアのステレオ出力を再生用の機器（スピーカー、ミキサー、ヘッドフォン等）に接続します。
マルチ出力（ステレオ出力以上）の用法についてはオペレーションマニュアルをご参照ください。本書では標準のステレオ接続についてのみ解説します。
4. 可能であればオーディオハードウェアで、再生の確認をします。
ASIO ドライバーを使用するオーディオハードウェアではテストアプリケーションが必要になります（多くの場合はハードウェアに付属しています）。

MIDI インターフェースについて

Reason Essentials を外部 MIDI コントローラーなしで使用することも可能ですが（「オンスクリーンピアノキー」で演奏、またはシーケンサーに手書きでノートやオートメーションを書き込む）、これではプログラムの特長を最大限に引き出せません。下述では MIDI インターフェースと外部 MIDI コントローラー（MIDI インターフェース機能内蔵の USB キーボードなど）を使用していることを前提に解説します。

- MIDI インターフェースとドライバーをインストールする際はこれらのマニュアルの記述に従ってください。
- 1 入力のための MIDI インターフェースでも使用可能ですが、複数入力を装備したインターフェースがより便利です。
Reason Essentials パラメーターを複数の MIDI コントロールサーフェスで制御する場合や、Reason Essentials を外部のスタンドアロンシーケンサーやドラムマシンなどと併用して使う場合などでは特にそうです。
- USB 経由で接続した MIDI インターフェースの中にはドライバーのインストールが不要なものがあります。この場合インターフェースを接続するだけで準備 OK です。
- それ以外のより高機能な MIDI インターフェース（もしくは複数入力のような高度な機能を持つ製品）の場合、ドライバーのインストールが必要です。
詳しくはインターフェースに付属するドキュメントをご参照ください。

MIDI 接続

- USB ケーブルを使ってキーボードをコンピューターに接続します。
または
- MIDI キーボード（またはその他の MIDI コントローラー）の MIDI 出力端子と、MIDI インターフェースの MIDI 入力端子を MIDI ケーブルで接続します。
これだけで外部の MIDI キーボードを使って Reason Essentials でノートやコントローラーを演奏 / レコーディングできます。
- USB キーボードをご使用でない場合は、MIDI インターフェースの MIDI 出力端子と MIDI キーボードの MIDI 入力端子も接続します。
これは絶対に必要と言う訳ではありません。ただしこれにより Reason Essentials を初めて起動した時に現れる Reason Essentials セットアップウィザード（p. 22 「最初の起動時 - Reason Essentials セットアップウィザード」参照）や環境設定のデバイス自動検出時（p. 28 「コントロールサーフェスの追加」参照）に双方向コミュニケーションが可能になります。自動検出への対応 / 非対応は MIDI キーボードの機種によります。
- ! もし複数の MIDI コントロールサーフェスを使用する場合は、それぞれ別々の MIDI ポートに接続するか、USB で直接コンピューターに接続する方法を推奨します。

ソフトウェアのインストール

Reason Essentials フルバージョンのインストールを DVD またはダウンロードから実行

ご使用のコンピューターに他にフルバージョンの Reason Essentials がない場合、もしくは Reason Essentials バージョン 2.0 未満からアップデートする場合は、フルバージョンの Reason Essentials インストーラーをご使用ください。

- Reason Essentials のディスクを DVD ドライブに挿入するか、ダウンロードしたファイルを解凍するか (Windows)、ディスクイメージをマウントします (Mac OS X)。
次の手順は Mac と Windows コンピューターによって異なります。

Windows :

1. "Install Reason Essentials 8.exe" というファイルをダブルクリックします。
システム設定によっては自動的にインストーラーが起動することもあります。
2. 表示される指示に従ってインストールを進めます。
インストールが始まる前に、言語とインストール場所の選択とデスクトップにプログラムへのショートカットを作成するオプションが提示されます。インストールが完了すると Reason Essentials をすぐに起動するオプションが表示されます。
インストーラーは次のディレクトリに Factory Sound Bank と ID8.dat ファイルをインストールします : C:\ProgramData\Propellerhead Software\Soundbanks

Mac OS X :

- Mac では "Reason Essentials" というフォルダーをハードディスク内の "アプリケーション" フォルダーにドラッグするだけです。
Factory Sound Bank と ID8.dat ファイルは最初は Reason Essentials 8 フォルダーにあります。Reason Essentials 初起動の際に Library/Application Support/Propellerhead Software/Soundbanks フォルダーに移動されます。

プラットフォーム共通 :

- ・ インストール中には Authorizer アプリケーションもコンピューターにインストールされます。
このアプリケーションは Reason Essentials のオーソライゼーション (下記参照) と、Rack Extension デバイスの管理に必要です。

Mac OS X の Sound Bank について (DVD 版のみ)

Mac OS X で初めて Reason Essentials を起動する前に、Reason Essentials DVD が挿入されていることをご確認ください。これにより、Factory Sound Bank がハードディスクにコピーされます。

Reason Essentials バージョン 2.0-8.1 からのアップデート

Reason Essentials バージョン 2.0-8.1 からアップデートする場合、ファイルサイズがより小さい "Reason Essentials 8.3 without soundbanks" バージョンをダウンロードすることで、ダウンロード時間を短縮できます。"Reason Essentials 8.3 without soundbanks" バージョンのインストールは以下のように行います :

1. Reason Essentials 8.3 without soundbank をダウンロードします。
2. ダウンロードしたファイルを解凍 (Windows) するか、ディスクイメージをマウント (Mac OS X) します。
- Windows では "Install Reason Essentials 8.exe" ファイルをダブルクリックし、画面上の指示に従います。
- Mac OS X では Reason Essentials 8 フォルダーを "アプリケーション" フォルダーにドラッグします。
3. 古い "Reason Essentials" フォルダーから新しい "Reason Essentials 8" フォルダーへ、Factory Sound Bank ReFill を移動します。
4. 古い "Reason Essentials" フォルダーを削除します。



5. Reason Essentials 8.3 を起動します。

Reason Essentials はさらなるコンテンツ (ID8.dat) をダウンロードするよう、促します。ダウンロードが終わると Reason Essentials は自動的に Factory Sound Bank を以下のフォルダー内のサブフォルダーに移動します：

Windows:

C:\ProgramData\Propellerhead Software\Soundbanks\

Mac OS X:

/Library/Application Support/Propellerhead Software/Soundbanks

これらは、既存のサウンドバンクに影響することなく Reason Essentials によって自動更新できるように、これらのフォルダーに移動されます。

もし Reason Essentials がファクトリーのサウンドバンクをこれらのフォルダーに検知しなかった場合、自動的に Propellerhead ウェブサイトからダウンロードされ、この場所に保存されます。

オースライゼーションシステム

Reason Essentials は可能な限り柔軟性を考慮しつつ、優れたコピー保護が可能なオースライゼーションシステムを採用しています。次のように機能します：

- ・ オースライゼーションシステムの核は、Propellerhead ウェブサイトでご自身のユーザーアカウントに登録したライセンスナンバーです。
- ・ インターネット接続されている場合は、Reason Essentials をインターネット認証で使用できます。
- ・ インターネット接続なしで Reason Essentials を使用する場合は、CodeMeter アプリケーションをダウンロードして、Propellerhead ユーザーページからコンピューター（もしくは Ignition Key ハードウェア）をオースライズできます。

Reason Essentials は起動時にコンピューターがオースライズされていることを自動的に認識します。さらに任意で Ignition Key ハードウェア (USB スティック) または Propellerhead Balance オーディオインターフェースをオースライズできます。これらを接続することで、どのコンピューターでも Reason Essentials をオースライズモードで使用できます。

- ・ 最後に、インターネット接続、オースライズされたコンピューター、Ignition Key ハードウェアのどれもない場合はデモモードで Reason Essentials を使用できます。このモードはプログラムの購入前に試すために使うモードでもあります。デモモードではソングの保存を含め、通常通り作業を行えます。ただしデモモードではソングを開くことはできません（詳しくは p. 20 「Reason Essentials をデモモードで使用する」ご参照ください）。

Reason Essentials の登録

Reason Essentials をオースライズモードで使用するには、プログラムをご自身の Propellerhead ウェブサイトのアカウントに登録する必要があります (p. 17 「Reason Essentials をインターネット認証で使用する」と後で追加のリンク参照)

- パッケージ版の Reason Essentials をご購入になった場合は、DVD のスリーブに記載された手順に従ってください。
- ! Reason Essentials を Propellerhead ウェブショップから直接ご購入された場合、Reason Essentials のライセンスは既にユーザーアカウントに登録されており、インターネット認証を使って Reason Essentials を使用できます。

Reason Essentials をインターネット認証で使用する

オーソライズされていないコンピューター、または Ignition Key ハードウェアなしで Reason Essentials を起動すると、次のウィンドウが現れます：



- ！ 注：これにはインターネット接続が必要です（p. 16 「Reason Essentials の登録」の記述通り、Reason Essentials ライセンスがユーザーアカウントに登録済みであることが前提になります）。
- ご自身の Propellerhead アカウントのユーザー名とパスワードを入力し、ログインボタンを押します。Reason Essentials はオーソライズモードで起動します。
- ！ 同じユーザーアカウントでオーソライズされた複数の Reason Essentials を複数のコンピューター上で同時に使用することはできません。この場合、Reason Essentials はデモモードに切り替わります（p. 20 「Reason Essentials をデモモードで使用する」）。

コンピューター /Ignition Key のオーソライズ（オフライン使用のため）

！ 注：次の手順を行うにはインターネット接続が必要です。

1. Reason Essentials を起動します。

Reason Essentials を起動すると次のウィンドウが表示されます：



2. “さらなるオプション” ボタンをクリックします。

デフォルトのウェブブラウザが起動し、オーソライズ手順が詳しく記載されている Propellerhead ウェブサイトの “さらなるオプション” ページが開きます。

3. ウェブページのリンクから、Codemeter をダウンロード、インストールします。

以前のバージョンの Reason Essentials からアップデートしている場合は既に Codemeter がインストールされているかもしれませんが、最新バージョンの Codemeter ドライバをダウンロード、インストールすることを推奨します。

4. インストールが終わったら、“さらなるオプション” ページへ戻り、“Authorize Computer and Keys” のリンクをクリックします。

5. 次回の起動からログインの必要なく、Reason Essentials をオーソライズモードで使用できます。ウェブブラウザは閉じて大丈夫です。

コンピューター /Ignition Key のオーソライズ解除

コンピューターと Ignition Key をそれぞれ 1 つずつオーソライズできます。他のコンピューターに作業を移す場合、まず現在ご使用のコンピューターのオーソライズを解除してから、他のコンピューターをオーソライズする必要があります。この作業は Propellerhead ウェブサイトのお客様のアカウントページから行います。

1. 現在オーソライズされているコンピューターでログインし、ユーザーメニューから **"Products"** ページにアクセスします。
2. **"Authorize"** ボタンをクリックします。
表示されるページで、コンピューターのアイコンのとなりに **"Deauthorize"** ボタンがあるはずです。
3. コンピューターのアイコンのとなりの **"Deauthorize"** ボタンをクリックしてコンピューターからオーソライゼーションを取り除きます。

オーソライズされたコンピューターではなく、オーソライズされた Ignition Key もしくは Propellerhead Balance オーディオインターフェースを使用している場合は、Ignition Key/Propellerhead Balance を新しいコンピューターへ移すだけで大丈夫です。

！ OS のアップデート、コンピューターの修理、もしくは売却する前に、必ずオーソライズを解除してください。

Reason Essentials をオーソライズされたコンピューター、または Ignition Key ハードウェアで使用する

オーソライズされたコンピューターまたは Ignition Key ハードウェア (Propellerhead USB スティックまたは Propellerhead Balance オーディオインターフェース) を接続して Reason Essentials を起動すると、それ以上の操作なしにプログラムを使えます。

- Ignition Key を使用する場合、コンピューターと Reason Essentials を起動する前に Ignition Key ハードウェアを接続してください。これにより Reason Essentials はオーソライゼーション操作なしに起動します。

オーソライズされたコンピューター、または Ignition Key ハードウェアが接続されているコンピューターでは、Reason Essentials 使用時にインターネットへ接続する必要はありません。

Reason Essentials をデモモードで使用する

Reason Essentials ライセンスを持っていない、コンピューターがオーソライズされていない、または Ignition Key ハードウェアがなく、かつインターネット接続が使用できない場合、Reason Essentials をデモモードで使用できます：

1. Reason Essentials を起動します。

次のウィンドウが現れます：



2. “デモモード” ボタンをクリックします。

Reason Essentials はデモモードで起動します。

シーケンサーのトランスポートパネル右側の“Demo Mode”インジケーターが点灯します。



Reason Essentials をデモモードで使用する場合、次の2つの例外を除き、オーソライズモードと同じ操作を行います：

- オーディオのエクスポート、Propellerhead へのファイルのアップロード（Drop to Propellerhead）、ミキサーチャンネルのディスクへのバウンスはできません。
- Rack Extension デバイスは使用できません。
- ソングを開けません。

デモモードで開けるソングはデモソングのみ（拡張子“.reedemo”）です。これらデモソングは“ファイル”メニューの“デモソングを開く”で開けます。

オーソライズされていないコンピューターで Reason Essentials を使用している際に、Ignition Key ハードウェアを取り外すか、インターネット認証モードで使用中にインターネット接続が切断された場合、プログラムは自動的にデモモードに切り替わります。この場合でも通常通り作業を続けられる上、ソングの保存も可能です。Ignition Key ハードウェアを再接続するか、インターネット接続が回復すると Reason Essentials は自動的にオーソライズモードに戻り、デモモードインジケーターは消えます。

第 3 章

セットアップ

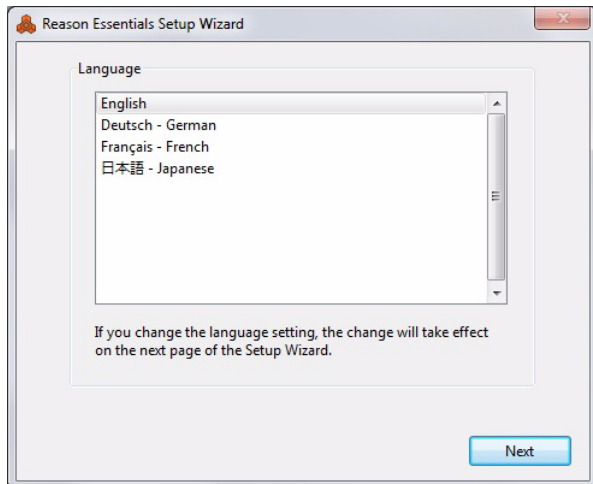
本章について

本章は Reason Essentials を使い始める前に行うセットアップについて解説します。セットアップは音の入出力を行うため、さらに MIDI で Reason Essentials をコントロールするために必要な作業です。

最初の起動時 -Reason Essentials セットアップウィザード

前章の説明通り正しくインストールが終了すると Reason Essentials は起動します。まず最初に Reason Essentials セットアップウィザードが表示されます。

セットアップウィザードはインストール後、最初の起動時にのみ現れます。



- ! 表示言語の選択ページは Windows 環境でのみ表示されます。Mac OS X ではシステムの言語が使用されます。
- ! セットアップウィザードで設定した内容は、後から環境設定ダイアログでいつでも変更することが可能です。
- [次へ] をクリックするといくつかのダイアログが順番に表示され、次の操作を行います：
 - ・ セットアップウィザードはまず最初に互換性のあるオーディオドライバを検出します。一番最初に検出された互換性のあるドライバが自動的に選択されます。選択されたドライバが希望するものであれば、そのまま問題ありません。もし違う場合はオーディオ出力ポップアップメニューから希望のオーディオドライバを選択してください。どのドライバを使えば良いのかわからない場合は、p. 25 「オーディオハードウェアのセットアップ」をご参照ください。
 - ・ 次に Reason Essentials はマスター MIDI キーボードを自動検出します。検出された MIDI キーボードを使う場合は「設定する」をクリックして次に進んでください。
- ! Reason Essentials にデバイスを自動検知させるには双方向の MIDI コミュニケーションが必要です！ただし USB ではなく、MIDI 入力もないキーボードデバイスでも手動で追加できます。
- ! 最新の USB キーボードであっても、Reason Essentials が検知できない機種もあります。これらでも自動検出されたキーボードと同様に Reason Essentials をコントロールすることができます。

- ・ Reason Essentials が接続されているキーボードを検出できない場合、もしくは「設定しない」をクリックした場合は、マスターキーボードを手動で指定するよう促されます。最初に "メーカー" を、次に "モデル" を選択します。お使いのキーボードの機種がリストにない場合は "Other" を選択します。
- さらに使用する MIDI ポートを指定します。
これはポップアップメニューから手動で選択するか、[検出 ...] ボタンをクリックしてから MIDI キーボード（コントローラー）のキーを押します。
- もし他のMIDIキーボードやコントロールサーフェスを追加する場合は環境設定ダイアログで設定を行います。詳しくは p. 28 「コントロールサーフェスの追加」をご参照ください。
セットアップウィザードは現在接続されている MIDI マスターキーボードデバイスだけを設定します。

セットアップは以上です！

ここまで問題なく進むとオーディオと MIDI の接続（オーディオの再生や Reason Essentials に MIDI を送信するために必要な基本設定）は完了です！

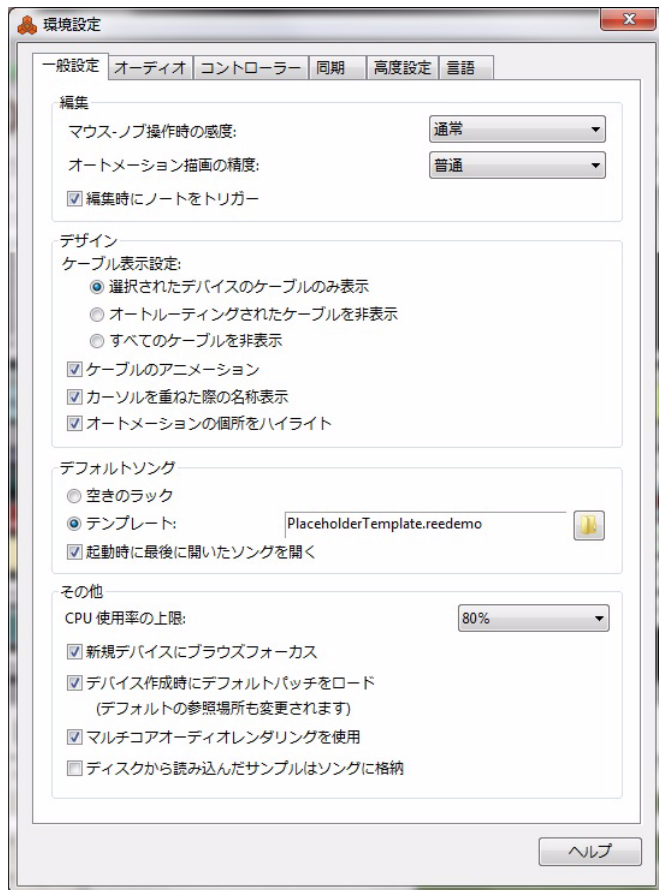
もしなんらかの理由によって、セットアップウィザードで必要なセッティングがうまくいかなかった場合、もしくは他のデバイスを追加したい場合は、環境設定ダイアログで設定を行う必要があります（下記参照）。

- 開きたいソングを選択、さらに Propellerhead ウェブサイトの Getting Started Tutorial を見るか選択します。

セットアップウィザードの最終ページではデモソング、テンプレートドキュメント、または空のソングを開くか選択できます。また Propellerhead ウェブサイトの Getting Started ビデオチュートリアルを見るオプションもあります。

環境設定について

オーディオや MIDI に関する基本的な設定は環境設定ダイアログで行います。環境設定ダイアログは "編集" メニュー (Mac OS X の場合は "Reason Essentials" メニュー) から開きます。



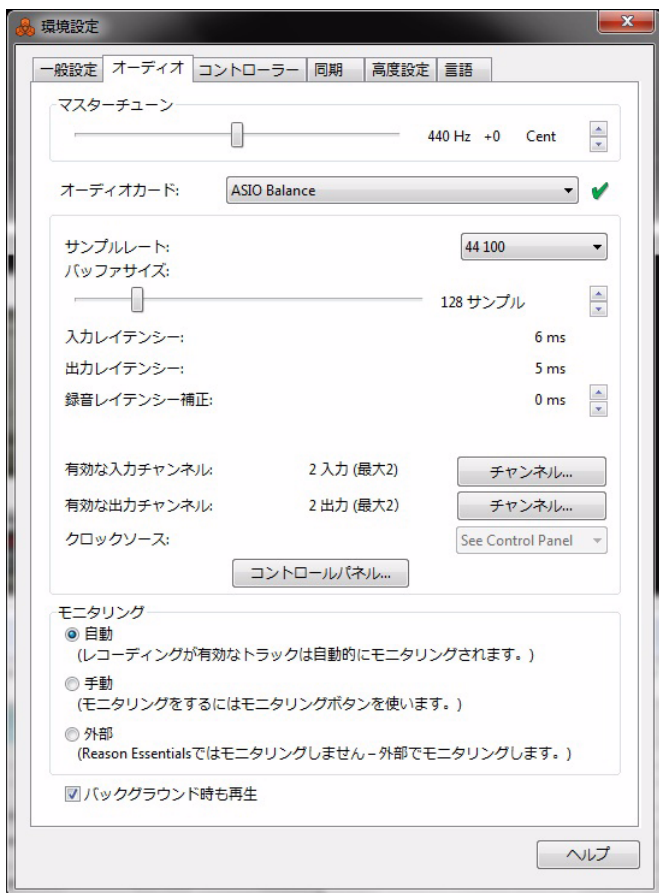
環境設定ダイアログ

- 本書では最も重要な項目のみ解説します。他の項目についてはオペレーションマニュアルの「メニュー / ダイアログレファレンス」の章をご参照ください。

オーディオハードウェアのセットアップ

セットアップウィザードでの設定がうまくできなかった場合は、手動で Reason Essentials とオーディオハードウェアの接続に関する設定を行う必要があります。これにはオーディオドライバ（プログラムとオーディオハードウェアをつなぐためのソフトウェア）を選択します：

1. 環境設定ダイアログで "オーディオ" タブをクリックします。



2. "オーディオカード" ポップアップメニューからドライバを選択します。
使用しているプラットフォームとオーディオハードウェアによって選択するドライバは異なります。オプションがあなたのセットアップで適用不可の場合、ダイアログ上で無効表示されます。

Mac OS X

- 使用したいハードウェアに相当するオプションを選びます（内蔵オーディオまたはインストール済みのオーディオハードウェアなど）。
- オーディオカードポップアップにはいくつかの内蔵入出力の組み合わせがプリセットとして準備されています。
この際、使用できる入力 + 出力の組み合わせの数は、ご使用のコンピューターのハードウェア構成によって異なります。

Windows

- ! Windows 環境で Reason Essentials を使用するには ASIO 対応のオーディオハードウェアが必要です。ASIO 対応でないと録音ができません。
- 希望する ASIO ハードウェアに相当するオプションを選択します。
ご使用のオーディオハードウェア専用の ASIO ドライバーがある場合は、それを選択します。
専用 ASIO ドライバーを使用することによって、Reason Essentials とオーディオカードはダイレクトにコミュニケーションできます。これにより低オーディオレイテンシーやマルチ入出力が実現します。

レイテンシーとその他オーディオ設定について

"オーディオ" タブにはサウンドカードに関する追加設定項目があります。もっとも重要な箇所は "バッファサイズ" と入力 / 出力レイテンシーの表示です。



入力レイテンシーとはマイクロフォンやインストゥルメントからオーディオが「発信」された時点から、Reason Essentials で受信されるまでの遅れを指します。出力レイテンシーとは再生時に Reason Essentials が信号を「送信」してから、その音が耳に届くまでの遅れを指します。オーディオシステムのレイテンシーはご使用のオーディオハードウェア、それを制御するドライバー、そして設定によって変化します。ドライバーを選択すると自動的にオーディオカードからレイテンシーの値が報告され、環境設定の "オーディオ" タブに表示されます。オーディオハードウェアとドライバーによってはこの値を調整できます。レイテンシーが大きい場合は設定を調整する必要があります。

- 可能であれば、バッファサイズスライダーを使用してレイテンシー値を下げます。
使用できる最低バッファサイズ値は、オーディオドライバーとコンピューターのスペックによって異なります。再生中にクリックやグリッチノイズが発生する場合、バッファサイズが低すぎます。問題なく再生できるまでバッファサイズを上げてください。
- バッファサイズスライダーが無効になっている場合は、オーディオハードウェアのコントロールパネルでバッファサイズを下げることもできます - [コントロールパネル] ボタンをクリックして開けます。

詳細はオペレーションマニュアルをご参照ください。

MIDI のセットアップ

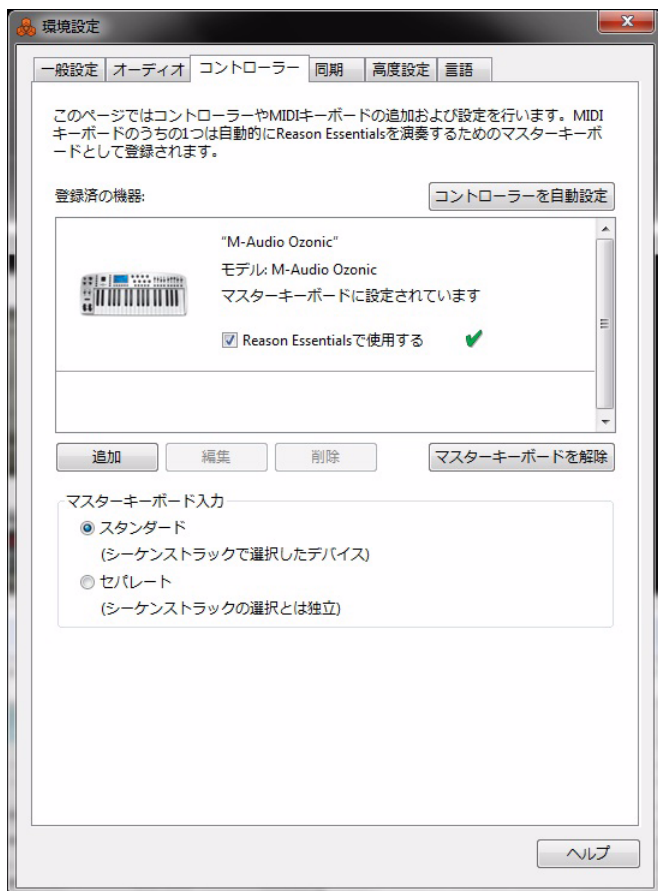
Reason Essentials では MIDI キーボードやリモートコントロールデバイスのことをコントロールサーフェス（コントローラー）と呼びます。コントロールサーフェスからの MIDI 入力は Remote と呼ばれるシステムによって処理されます。主な特徴は以下のとおりです：

- **同時に多数のコントロールサーフェスを使用できます。**
- **多数のコントロールサーフェスに対応しています - コントローラーに搭載されたツマミ、フェーダー、ボタンは自動的に Reason Essentials デバイスの一番頻繁に使用されるパラメーターにアサインされます。**
コントロールサーフェスの設定をデバイスごとに変える必要はありません - MIDI 入力を ID 8 トラックから Combinator トラックに変えたとしてもコントロールサーフェスが自動的に対応します。コントロールサーフェスを Reason Essentials で一度だけ設定すれば、後は Reason Essentials が処理します。
- **現在ネイティブ対応していないコントロールサーフェスには、汎用ドライバを使用できます。**
もちろん他のコントロールサーフェスの Remote ドライバーは今後もアップデートされます - 詳しくは Web ページにて。
- **デフォルトでは全てのコントローラーはシーケンサーの MIDI 入力に追従します。**
つまり MIDI 入力をシーケンサートラックにアサインすると、コントロールサーフェスも同じトラックのデバイスにルーティングされます。
- **コントロールサーフェスを任意のデバイスにロック（専用に設定）することができます。**
例えば MIDI 入力に追従するマスターキーボードとミキサー操作用にロックされたコントロールサーフェス、というように使い分けることができます。こうすることによって常にレベルやパンを制御することができます。これに関してはオペレーションマニュアルに説明があります。
- **リモートオーバーライド機能によりコントロールサーフェスの特定のコントローラーを、任意の Reason Essentials パラメーターや機能にアサインすることができます。**
例えば特定のツマミ、またはフェーダーをミキサーのマスターレベルフェーダーにアサインしたり、コントロールサーフェスのボタン類を Reason Essentials のトランスポート（再生、停止、録音、他）にアサインすることにより、MIDI 入力のトラックアサインとは関係なく常にこれらの操作を制御することができます。これに関してはオペレーションマニュアルに説明があります。
- **Remote はさらに一部の MIDI フィードバック機能付コントロールサーフェスに対応しています。**
Reason Essentials に対応しているこれらのコントロールサーフェスをお持ちであれば、モーターフェーダー、メーター、ディスプレイなどフル活用できます。

セットアップウィザードにおいてマスターキーボードを特定し、それ以外にコントロールサーフェスを使用しないのであれば、これ以上の操作を行う必要はありません。コントロールサーフェスを新しく追加したい、もしくは設定を編集したい時などは環境設定で行います。

コントロールサーフェスの追加

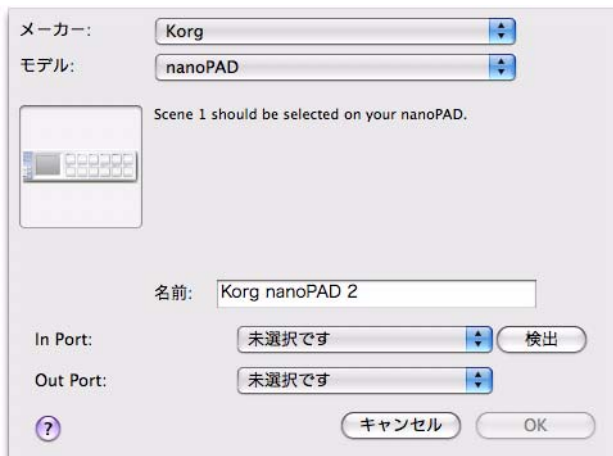
1. 環境設定ダイアログを開き "コントローラー" タブを選択します。
2. コントロールサーフェスが USB 経由 (または双方向 MIDI 接続) で接続されている場合、[コントローラーを自動設定] ボタンを押します。
Reason Essentials は全ての MIDI ポートをスキャンし、接続されているコントロールサーフェスの検知を試みます。全てのコントロールサーフェスが自動検知に対応しているわけではないのでご注意ください。



"登録済の機器" リストに検知されたコントロールサーフェスが列挙されます。

3. 手でコントロールサーフェスを追加するには [追加] ボタンを押します。
新しいダイアログが開きます。
4. "メーカー" ポップアップメニューから追加するコントローラーのメーカーを選択します。
メニューにメーカー名がない場合は以下をご参照ください。

5. "モデル" ポップアップメニューから追加するコントローラーの機種を選択します。
メニューに機種名がない場合は下記をご参照ください。
6. 選択されたコントロールサーフェスの画像が表示され、機種によっては関連事項も表示されます - 関連事項をよくお読みください。
機種によっては Reason Essentials で使用するために特定のプリセットを選択する必要があります - それに関連する情報はここに表示されます。



7. "MIDI 入力" ポップアップメニューからコントロールサーフェスが接続された入力ポートを選択します。
入力ポートが定かではない場合、[検出] ボタンをクリックし、コントロールサーフェスのコントロールに触れるか、キーボードを演奏すると自動的に正しい入力ポートが選択されます。
- コントロールサーフェスの機種によっては複数の "MIDI 入力" ポップアップメニューがあるものもあります。
この場合、全ての MIDI 入力ポップアップメニューに入力ポートをアサインする必要があります。
- コントロールサーフェスの機種によっては "MIDI 出力" ポップアップメニューがあるものもあります。
これに "オプション" と表示されている場合に限りポートを選択する必要はありません。しかし、その他の場合は MIDI 出力をアサインする必要があります。モーターフェーダー、ディスプレイなどの MIDI フィードバック機能が装備されているコントロールサーフェスを使用する場合に該当します。
8. "名前" 欄にてコントロールサーフェスに好きな名称を付けることができます。
9. [OK] をクリックし、コントロールサーフェスを追加します。
これに "オプション" と表示されている場合に限りポートを選択する必要はありません。しかし、その他の場合は MIDI 出力をアサインする必要があります。モーターフェーダー、ディスプレイなどの MIDI フィードバック機能が装備されているコントロールサーフェスを使用する場合に該当します。

"コントローラー" タブに戻り、追加したコントロールサーフェスがリストに表示されます。

お持ちのコントロールサーフェスがメニューにない場合

お持ちのコントロールサーフェスが "メーカー" または "モデル" ポップアップメニューに無い場合は、Reason Essentials の Remote にネイティブ対応していないことを意味します。これに当てはまるコントロールサーフェスは、汎用コントローラーとしてプログラムに対応しています。設定手順は以下の通りです：

- "メーカー" ポップアップメニューから "Other" を選択し、"モデル" で3つの選択枠から適当なものを選びます。

また、メーカー名はあるが機種のみリストにない場合は：

- "モデル" で3つの "Other" の選択枠から適当なものを選びます。

どちらの場合も、以下から選択します：

- **MIDI Control Keyboard**
プログラム可能なツマミ、ボタン、フェーダーなど装備されている MIDI キーボードをお持ちの場合、これを選択します。コントロールする Reason Essentials デバイスに対して正しい MIDI CC メッセージを送信するように MIDI コントロールキーボードを設定する必要があります - Reason Essentials の「MIDI Implementation Chart」ドキュメントをご参照ください。コントロールサーフェスに Reason Essentials デバイス用のテンプレートやプリセットが用意されている場合は、これらを使用することもできます。
- **MIDI Control Surface**
プログラム可能なツマミ、ボタン、フェーダーなど装備されているが鍵盤はない MIDI コントローラーをご使用の場合はこれを選択します。このオプションでもコントロールサーフェスが正しい MIDI CC メッセージを送信するように設定が必要です。
- **MIDI Keyboard (No Controls)**
プログラム可能なツマミ、ボタン、フェーダーなどは付いていない MIDI キーボードをお持ちの場合、これを選択します。演奏のみに使用されます（ピッチベンド、モジュレーションホイールなどのパフォーマンスコントローラーも含む） - このタイプのコントロールサーフェスでは Reason Essentials デバイスのパラメーターをコントロールすることはできません。
- **MIDI Multichannel Control Keyboard/Surface**
これらのオプションは、複数の MIDI チャンネルを同時に処理できる MIDI キーボードやコントロールサーフェスをご使用の場合に選択できます。

機種を選択したら前述のように MIDI 入力を選択します。

マスターキーボードについて

コントロールサーフェスの内、ひとつはマスターキーボードとして指定できます。マスターキーボードには鍵盤が付いている必要があり、特定の Reason Essentials デバイスにロックできません（つまり必ずシーケンサトラックの MIDI 入力に追従します）。このコントロールサーフェスを使って Reason Essentials のインストゥルメントデバイスを演奏します。

- **最初に追加された鍵盤付きのコントロールサーフェス（または自動検出されたもの）が自動的にマスターキーボードに指定されます。**
この設定内容は環境設定の "登録済の機器" リストに表示されます。
- 別のコントロールサーフェスをマスターキーボードに指定するには、それをまずリストから選択し、[マスターキーボードに設定] ボタンをクリックします。
マスターキーボードは一台のみ指定できます。
- マスターキーボードを全く指定しない場合は、マスターキーボードに指定されているコントロールサーフェスをリストから選択し、同じボタンをクリックします（この場合、ボタンは [マスターキーボードを解除] に変ります）。

マスターキーボード入力

これでマスターキーボード入力のモードを設定します。

- ・ **スタンダード**
マスターキーボード入力は、トラックで選択したデバイスに自動的にアサインされます。
- ・ **セパレート**
マスターキーボード入力をトラックの選択から独立させます。マスターキーボード入力はトラックリストのデバイスアイコンをクリックして選択します。他のトラックを選択（トラックネームをクリック、またはトラックリストをクリック）しても、マスターキーボード入力は移動しません。

その他の機能

- **コントロールサーフェスの設定内容を編集するには、リストからそのコントロールサーフェスをダブルクリックします（または選択し、[編集] をクリックします）。**
必要に応じて名称と MIDI ポート設定を変えることができます。
- **コントロールサーフェスを削除するにはリストから選択し、" 削除 " をクリックします。**
- **"Reason Essentials で使用する " チェックボックスを無効にすることで、コントロールサーフェスを「切る」ことができます。**
この機能はコンピューターに接続されたコントロールサーフェスを他のアプリケーションでのみ使用したい場合などに便利です。
- ・ **環境設定の中には " 同期 " ページもあります。**
このページは外部からのコントロールと MIDI クロック同期の設定になり、操作のための MIDI コントロールは全て " コントローラー " タブにて設定します。

デフォルトソングの設定

"ファイル"メニューから"新規"を選択した際に、「テンプレート」として自動的に開くデフォルトソングを指定することができます。デフォルトソングは以前に作成したソングや、付属のテンプレートソングから選択できます。デフォルトソングの指定は環境設定ダイアログの"一般設定"タブで行います。

1. "編集"メニュー (Win) または "Reason Essentials" メニュー (Mac) から "環境設定" を選択し、"一般設定" タブをクリックします。



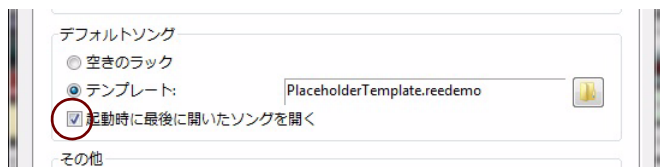
2. "デフォルトソング" セクションで "テンプレート" ラジオボタンをクリックします。
3. 右側のフォルダーアイコンをクリックし、新規ソングのテンプレートとして使用する Reason Essentials ソングを選択します。

新しいソングを作成するたび ("ファイル"メニューから"新規"を選択)、選択したソングが読み込まれ、新しいソングのテンプレートとなります。新規ソングの名前は Windows 環境では "Document n" ("n" は番号)、Mac OS X では "untitled n" ("n" は番号) になります。ソングを保存する際に名前を変えられます。

起動時に最後に開いたソングを開く

Reason Essentials を起動するたびに、前回最後に開いていたソングを自動的に開くよう設定できます。設定は環境設定ダイアログの "一般設定" タブで行います。

1. "編集"メニュー (Win) または "Reason Essentials" メニュー (Mac) から "環境設定" を選択し、"一般設定" タブをクリックします。



2. "起動時に最後に開いたソングを開く" オプションにチェックを入れます。
次回 Reason Essentials を起動したとき、最後に保存されたソングが自動的に開きます。

Mac OS X ファンクションキーの再アサイン

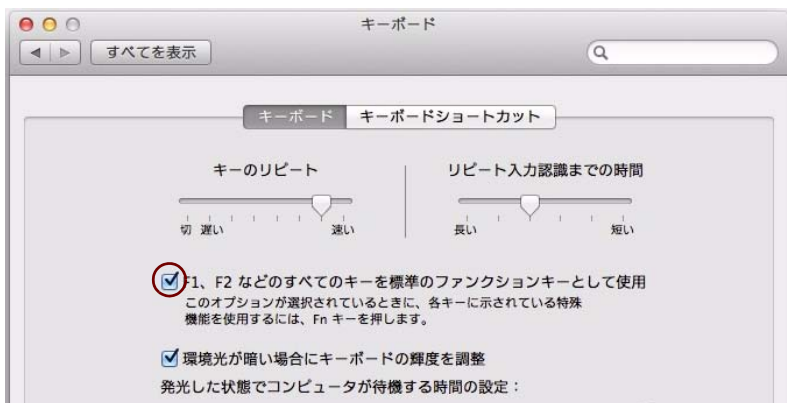
Reason Essentials で作業を行う際、3つのメインエリア（メインミキサー、ラック、シーケンサー）の間を頻繁に行き来します。これらを切り替える最も早い方法はファンクションキー F5、F6、F7 を使用する方法です（オペレーションマニュアルの「共通の操作と概念」の章の「エリア間のナビゲーション」参照）。また F3、F4 と F8 キーはそれぞれブラウザ、オンスクリーンピアノキーとツールウィンドウ表示 / 非表示に使います。

ただし多くの Macintosh 機種（特に MacBook）では、これらファンクションキーはハードウェアコントロールボタンとしても機能します。例えば内蔵スピーカーのボリューム、画面の明るさ、キーボードのバックライトなどを制御します。Reason Essentials などのアプリケーションでこれらのファンクションキーを使用するには「Fn」キーを押しながら操作する必要があります。

それでも操作は問題なく行えますが、Reason Essentials での作業をより円滑にするために設定を変更することをお奨めします（F5 は「F5」コマンドに、ハードウェア操作は Fn を押さえるように入れ替える）。以下のように行います：

1. **Mac OS X のシステム環境設定を開き、「キーボード」を選択します。**
「キーボード」設定が表示されます。
2. **「キーボード」タブを選択し、「F1、F2 などのすべてのキーを標準のファンクションキーとして使用」オプションにチェックを入れます。**

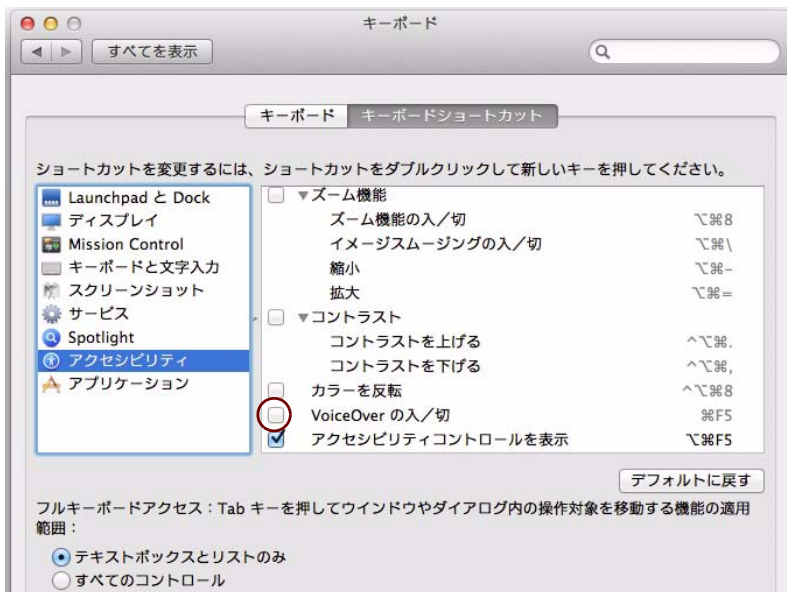
これで F3-F8 を使って Reason Essentials の機能を制御できます。ボリュームや画面の明るさ調整などのハードウェアコントロール機能を使用するには、「Fn」キーを押しながらファンクションキーを押します。



ファンクションキーの中には Mac OS X キーボードショートカットにアサインされているものもあり、これらは Reason Essentials などのソフトウェアより優先されます。これも簡単に変更できます：

3. **「キーボード」ウィンドウの「キーボードショートカット」タブをクリックします。**
キーボードショートカット環境設定ウィンドウにはシステム機能にアサインされたキーボードショートカットのリストが表示されます。例えば [Cmd]-[F5] は VoiceOver 機能の使用 / 停止にアサインされていますが、これはメインミキサーを個別のウィンドウに切り離すためのショートカットでもありません。

4. "VoiceOver 機能の使用 / 停止" アイテムにスクロールし、チェックを外すか、他のキーボードショートカットをアサインします。



5. これで設定は完了です。"キーボード" ウィンドウを閉じます。
以後、ファンクションキーとキーボードショートカットは Reason Essentials で正しく機能します。